

167 十二支由来(イ)

鼠が利口なもので、昔の神様がね、神様が動物たちを集めてね、番号を付けると言つてね、動物たちを呼んでね、順番にやつたらしい。

それが、鼠が利口なものでね。牛はゆつくりゆつくり、まあ、のろのろして行くでしょう。ほいで、牛に、「あんたはね、のろいからね、ゆつくりゆつくり神様のほうに行つてよ」と言つて。その鼠が利口で、牛の頭の上に乗つてね。わからないから、鼠は軽いから。そいで、牛は、

「二番」と言つてね、行つたらしいね。牛はゆつくりゆつくり一番になるといつてね、やつたらしい。それで、鼠はね、頭の上に乗つてね、神様の前来てからね、すうつと跳んで行つてね、鼠が。それで鼠が一番になったらしい。

子・丑・寅というね、鼠が一番になつてね、そうやつて名付けられたらしいよ。そういう話をわれわれはお

伽話かわからんがね、そういうことを話してもらったわけさ。

それで、猫へ、

「お前は何でもないから行かんでもよい」と、鼠がね、猫のほうに話して。それで、猫はもう、

「そんなら、行かんでもいいだろう」と言つて、行かなかったらしい。それでも、猫は怒つてね、

「お前は嘘をついただろう。みんな集まつておるが、うちはお前が言うたからね、行かなかったよ。お前はけしからん」と言つてね、猫が鼠を食つたらしいね。

字北波平 大城正太郎

類話

字糸満 野原由宗

字武富 大城トミ、長嶺京子

字真栄里 比嘉スエ、玉城亀雄

字糸洲 神里カマ

字束里 上良ヒデ 下田ミツ（上里区）

字束里 佐久真ミヨ（東辺名区）

字大度 高嶺止仁、高嶺 正、玉城盛栄
字摩文仁 金城宏栄